



2022年1月6日

各 位

ENEOS オーシャン株式会社

2022年 社長（廣瀬 隆史）年頭挨拶について

当社社長 廣瀬 隆史は、グループ社員に向けて年頭挨拶を行いました。要旨を下記の通りお知らせいたします。

記

1. はじめに

新年、明けましておめでとうございます。2022年の年頭にあたりまして、皆さんに一言ご挨拶申し上げます。

先ずは、年末年始にも関わらず業務に精励いただいた、乗船中の海上従業員の皆さん、休みの間も各ターミナルに勤務された海務監督の皆さん、本社で勤務された皆さん、そしてそれらの業務を支えてくださったグループ会社・協力会社の皆さん、大変ご苦勞様でした。皆さんのご尽力により年末年始期間に大きな事故・トラブルはありませんでした。あらためまして、皆さんの日頃からの努力に心より感謝申し上げます。

ご存じのとおり、今年は寅年です。「虎は千里の藪に住む」という諺があります。優れた者は狭い範囲だけで活動せず、大志を抱いて広大な世界をその活躍の場とするという意味です。海外との通常の往来はまだ難しい時期ですが、民間人も「宇宙なう」の時代になりました。心は大きく、広く、外へ向かって積極的に活動していく年にしたいものです。

2. 2021年を振り返り

昨年も一昨年から引き続き、コロナウイルスの影響によって我々が初めて経験する出来事が数多くありました。生活の中でも、ビジネスの場面でも、気づけばこれまでの慣習に当てはまらない多くのニューノーマルが定着したと感じています。現在は日本での新規感染者数は低い水準が続いていますが、新たな変異ウイルスの感染拡大も心配されています。引き続きコロナウイルスには社会全体で臨機応変に対応することが求められるでしょう。

また、昨年はSDGsや環境問題への意識が、社会全般に幅広く浸透したように感じた年でもありました。それまでは国や企業が真剣に重要課題として取り組んでいるのか懐疑的な視線があったかもしれませんが、もはや形だけの対応をとる企業は社会的責任を果たしていると思われなくな



なりました。我々は船会社としてこのような世界レベルの目標達成に向かって経営をしていかなければ、社会にとってプラスにならない企業であるとの厳しい評価を受けてしまうでしょう。

今後も新型コロナウイルスによる世界景気の再後退や、ドック・船員交代への影響が、可能性として懸念されますが、現在まで、実績は中期経営計画目標に対し大きく逸脱することなく推移しています。これも偏に皆さんの日々の努力の積み重ね、安全・安定運航への意識徹底がもたらしたことと、心より感謝いたします。

中期経営計画には2030年の自分達のありたい姿も掲げられています。この機会に今一度、「自分たちのありたい姿」を一人一人がしっかりと認識していただければと思います。

3. 皆さんへのお願い

さて昨年に引き続き、一年の始まりに当たって今年も皆さんにお願いしたいことがございます。

まずは、「安全とコンプライアンスはすべての事業活動に優先する」ということです。どんなに普段良いパフォーマンスをしていても、一度安全やコンプライアンスで問題が起これば、企業は社会からの信頼を失います。評価してくれていた取引先の信用を失うことになり、一緒に働く仲間や自分自身を傷つけることにもなります。会社を作る防止策も大切であると同時に、それは働く者一人一人が、安全とコンプライアンスの重大さを認識し、行動することで最大の効果を発揮すると考えます。

もう一点は「心と体の健康」です。生活の最も大切な礎となるのが心と体の健康です。現代では、体調に全く問題がないことや、ストレスを抱えていないことは、なかなか難しいことなのかもしれませんが、皆さんにとってそういった健康な状態が「普通の状態」となるようにしたいものです。オンもオフも充実させて、どうか、意識的にライフワークバランスをとってください。そして、周りを見渡し、体調や心配事で悩みを抱えていそうな同僚がいたら、相手の立場に立ってコミュニケーションする気づかいを心がけていただけるように願います。

4. 最後に

迎えた2022年が、皆さん、そして皆さんのご家族にとって幸多き1年となりますよう祈念して、年頭のあいさついたします。

今年も元気に明るく、一緒に前に進んでいきましょう。ありがとうございました。

以上